

ぎよすじょうかまち

清洲城下町遺跡(本発掘調査B)

所在地 清須市市場地内

(北緯35度13分8秒 東経136度50分38秒)

調査理由 橋梁整備工事・総合治水対策特定河川工事(防災安全・緊急対策)(主)名古屋祖父江線 清洲橋

調査期間 令和6年4月

調査面積 300m²

担当者 堀木真美子・田中 良



調査地点(1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、愛知県建設局道路建設課尾張建設事務所による橋梁整備工事・総合治水対策特定河川工事(防災安全・緊急対応)(主)名古屋祖父江線清洲橋に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、実施した。調査区は2000年度の調査区00B区の北側にあたり、昨年度は23C区として石垣よりも上層(1面目・2面目)までを調査した。今年度は追加調査として、石垣部分を3面目として調査した(24区)。

立地と環境 清洲城下町遺跡は清須市中央部を流れる五条川兩岸の自然堤防状の微高地とその後背湿地に広がる遺跡である。今回の調査区(24区)は「後期清須城」を描いた古城絵図にある中枢部の北端に位置する。

調査の概要 今回の調査では、江戸時代前期の廃棄土坑や溝、遺物を含む整地層が検出され、その下層からは「後期清須城」の石垣と考えられる巨石列020SWが検出された。また、上層の瓦溜まり005SXと巨石列020SWから出土した瓦は、製作技法や規格など異なる要素が確認された。瓦溜まりが整地層を掘り込んで形成されるのに対し、巨石列020SWは整地層が形成されるよりも前に壊された痕跡が確認できるため、巨石列020SWの存続時期と瓦葺き建物(005SX)の存続時期が異なる可能性が想定される。この差については、城主の違いを表している可能性があるため、今後出土遺物の検討によってより明らかになると考えられる。

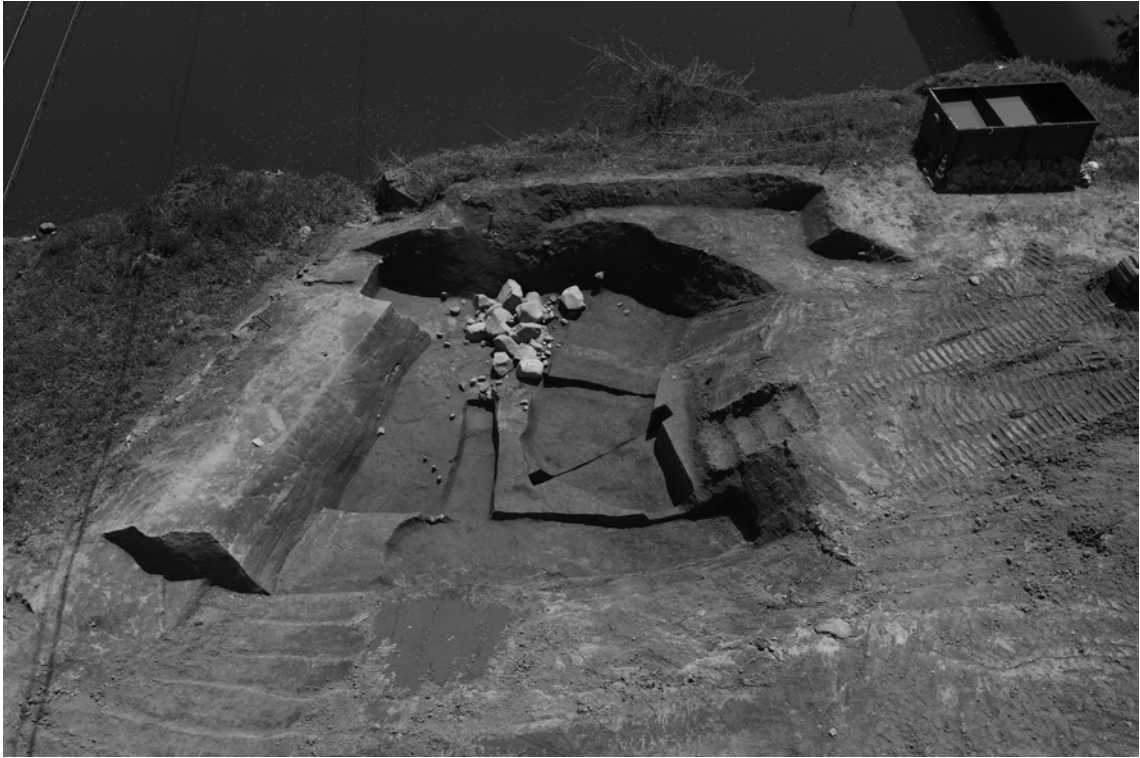
瓦溜まり 005SX 瓦溜まり 005SX は、大量の瓦と少量の陶器が出土する廃棄土坑である。この土坑は、整地層を掘り込んで形成されており、その埋土中から出土した瓦は、後述する巨石列020SWに伴う瓦と異なる要素が確認されている。瓦溜まりや整地層は、「後期清須城」の廃城(清須越し)に関連するものと考えられ、瓦溜まりからは、瓦葺き建物(櫓状建物など)の存在が想定される。

巨石列 020SW 巨石列 020SW は、瓦溜まり 005SX などが形成される整地層よりも下層から検出された。この巨石列 020SW は、00B 区から続く部分の北東に位置する。巨石列の基底部には、栗石が敷き詰められており、それらは、巨石が検出された位置よりも北側に伸びることが分かったが、北側はコンクリートによる護岸がなされており、残存していない。この巨石列 020SW は隣接する 00B 区から出土した木簡に、「ほしの新右衛門」の記載があり、この人物が織田信雄分限帳に記載された人物の可能性が高いことから、この巨石列の造成時期は「後期清須城」の織田信雄が城主だった時期(1586年～1590年)と考えられている。

(田中 良)



遺構全体図 (S=1/200)



調査区全景（西から）



005SX 遺物出土状況（東から）



005SX 遺物出土状況（北西から）



020SW 巨石列検出状況（北から）



020SW 巨石列基底部検出状況（北西から）